

滑川市早月加積地区／清流の里めぐり 2014年8月15日

3. 初代村長の家



■ 歴史と文化伝える

「滑川市の四ツ屋に、大層古いお屋敷がある」。連載を始める前、こんな話を聞いていた。何でも、由緒のある家で、パワフルな女性が守っているらしい。家にも、人にも興味が湧いた。7月上旬、四ツ屋の家を探して訪ねた。

大きな門の脇から敷地に足を踏み入れる。うっそうと茂る屋敷林に囲まれて、家屋と

庭園、茶室はあった。

「よう来られました。あんまり古くて驚いたでしょ」

満面の笑みで迎えてくれたのは中屋敏子さん（83）。洋服をおしゃれに着こなし、若々しい。よく話し、よく笑うチャーミングな人だ。

早速、母屋の大広間に通される。広さは実に21畳。天井には、釘を使わず組まれたという赤茶けた太いはりが見える。他の部屋も順に案内してもらおう。確かに、古い。

中屋家は豪農の家で、母屋は築200年以上と伝えられる。「早月加積郷土誌」（松井庄二著）によると、敏子さんの亡き夫の祖父、中屋静二氏は明治から大正にかけて24年間、早月加積村の初代村長を務めた。一時期、この家で役場事務が行われた。

魚津市慶野出身の敏子さんは23歳で嫁ぎ、教員をしながら家を支えた。この間、50年にわたって続けてきた趣味が縁で、自宅は愛好家の交流の場になっている。

実は敏子さんは俳人。富山ゆかりの俳人、角川春樹さんが主宰する俳誌「河」の滑川支部長だ。メンバーは県東部一円におり、自宅で月3回開く句会には計30人以上の俳句の教え子たちが訪れる。地元の小中学生にも教えている。

「おかげさまで忙して、忙して。家にたくさん人が来てくださるし、寂しいと思うとるひまがないが」 うれしそうに笑う。

2012年には、親交のある角川さんの句碑を庭園に設置した。12、13年は自宅を会場に大規模な茶会を開き、計約1200人が訪れた。

歴史とともに文化の魅力を伝え、人々が集う中屋家。

「大変なこともあるけど、守っていかなん、という気持ちが年々強くなるの」

敏子さんは、次の世代にしっかりと引き継ぐつもりだ。

■遠望近信 清田朝子さん（35）広島市、サクソ奏者

一番思い出深いのは早月川のこと。小学生のころ、よく友達と川沿いの林でカブトムシやクワガタムシを捕まえました。家族で泳ぎに行ったことも忘れられません。18歳で古里を離れましたが、帰省するたび、早月川や雄大な山並みが私の成長を見守ってくれていたんだなと思います。

昨年、「おかえり」というソロCDを発表しました。古里の風景や、妹をおんぶした祖母と手をつないで散歩したことなどを思い出しながら好きな曲を演奏しました。温かな気持ちを伝えられたら、うれしいですね。（追分出身）